

1 統一デザインの考え方

ここでは2章で示した課題や4章で示したデザインの考え方等を踏まえ統一デザインの考え方を整理する。

(1) 表記・言語

表記の言語は日英表記を基本とする。

地図の凡例や二次元バーコードの案内など、必要に応じて中国語や韓国語などを併記する。

(2) 書体・文字サイズ

日英中韓それぞれの書体について、ユニバーサルデザインに配慮したフォントなど、読みやすい角ゴシック書体に統一する。

また、将来的に書体の統一が維持できるよう、継続利用が可能な無償フォント等の採用も検討する。

使用書体例①

福岡市役所 FOT-UD角ゴ_スモール Pr6 M
Fukuoka City Hall Frutiger LT Std 55 Roman
福岡市政府 Noto Sans Mono CJK HK Regular
후쿠오카시청 Noto Sans Mono CJK HK Regular

使用書体例②<源の角ゴシック>*Adobe社、Google社共同開発

福岡市役所
Fukuoka City Hall
福岡市政府
후쿠오카시청

文字サイズは、視認距離に応じたサイズを基本としながら、読みやすさに留意し、タイトルや説明文など、文字の重要度や文字量に応じた調整を行う。

(3) ピクトグラム

サインに使用するピクトグラムの形状や配色を統一する。

日本産業規格 (JIS) などの標準規格の使用を基本とするが、意味が正確に伝えられるピクトグラムが無い場合や、道路標識と類似するおそれがある場合は、独自のピクトグラムを作成し使用する。

配置は最も顕在性の高い (目立ちやすい) サイン最上部とする。

(4) 色彩

サインのタイトルや説明文の背景・文字など、箇所ごとに配色を統一する。

なお、顕在性 (目立ちやすさ) や視認性 (読みやすさ)、景観性 (周囲の景観を阻害しないか) などについて配慮し、バランスの取れた配色とする。

また、色覚多様性等に配慮した配色とし、背景と文字のコントラスト比を十分に確保する。

(5) 地図デザイン

福岡市都市景観室が所有する地図下図を使用する。

地図の設置目的に応じて情報量を調整する。

(6) 2次元コード

サインには主に重要な情報のみを掲載し、詳細情報は2次元コードを活用してインターネット上に掲載する。